

***** メリークリスマス 2006 *****

今年はカラーになりました！

今年も実に色々なことがあった一年でした。幸い全体的に明るいことが多かった年だったと言えます。

一味は世間ではよく言われる「節目の年」で50歳になりました。(しかし、本人は50は十進法で節目となるだけで、実質的な意味はないと真剣にはとらえていませんというか、自覚がありません。)1月にラフィエットのショッピングモールに買い物に行った時、ペットショップにシーズーの子犬がたまたまいて、衝動買いをしてしまいました。一味は犬のいない生活に慣れ始めていたので、特に犬が欲しいということはありませんでしたが、由紀子に強く勧められた結果でした。その後の生活が一変したのは言うまでのことありません。(はい、めちゃくちゃです。)名前はチビタン3世としました。性格は今のところまあいい方でしょう。先代に比べると小ぶりで、受け口です。(というよりは、かなり下出っ歯。)一味は3月には左の内視鏡手術をしました。10年ほど前にした右膝と同じ半月板の手術で、ごく簡単なものでした。(おかげでバスケットボールがまだ続けられます。)それで春休みは静かに過ごしました。5月は一旦日本に戻り、途中でハワイによってダイビングの先生のアツシ氏と久しぶりに一緒に潜りました。彼が仕事を独立してから初めてだったのですが、順調にがんばっている様子でした。日本にいる間は夏の準備で、ミドルベリーにいらっしゃることになった落語の師匠達とのミーティングなどをしました。六月の中旬にはミドルベリーでの校長職が始まりました。二度目なので、昨年よりは勝手が分っているという部分はありましたが、今年も盛りだくさんのプログラムになりました。今年が目玉はなんと言っても柳家さん喬、柳亭左龍、林家二楽という第一線で活躍中のプロがミドルベリーにいらっしゃって、落語と紙切りのワークショップと落語と紙切りの会を催したことです。学生達の評判もすばらしく、教師もプロの技を堪能しました。このレベルの「本物」を目の前で見ることができるというのは日本にいても簡単に実現できることではなく、掛け替えのない経験でした。私としては、お三方のお世話をする中で、その人柄のすばらしさに触れることができ、貴重な勉強ができました。来年もまた来ていただけるように、今は予算集めをし



ています。この企画に始めから協力してくれた筑波大の酒井さんには大感謝です。(ちなみに一週間で聞くことができた演目は「子ほめ」「初天神」「親子酒」「長短」そして「時そば」、さらに教師限定特別公演は、真夏に聞く「芝浜」でした。落語ファンにとってはとても羨ましい演目ばかりでしょう。)今年の写真は <http://community.middlebury.edu/~khatasa/>で見られます。チビタン3世はミドルベリーでも癒し犬として活躍しました。(と私は勝手に思っていますが...)8月半ば過ぎにミドルベリーを無事終了し、現実世界に戻って来ました。秋は授業は一つだけだったのですが、会議での発表や招待がいくつかあり、ウィーン、ボストン、LA、ナッシュビルと旅行が立て込みました。



由紀子は相変わらず仕事に追われた一年で、今年は、3月から11月にかけて、バージニア、ミシガン、サンフランシ

スコ、ハワイ、モンリオール、ニューヨーク、ウィーン、ナッシュビルの学会に出て、その間に2度ほど日本にも帰りました。ハイライトは、ミシガン在住の女友達、田伏さん、久保田さん、藤原さん、岡さんとの旅行でした。女性だけのグループ旅行は生まれて初めての経験でした。(一味：私は本当にこれには参加しなくてよかったと思いました。) ワイナリーを回ったり、カラオケをしたり、同じリゾートのおじいちゃんおばあちゃんとウォーターエアロビクスをしたりといったもので、皆立派な中年ですが、一時的に1、2世代若くなったかのような楽しさでした。ミシガンの後は、ミドルベリーへ行き、日本語の授業を見せてもらったり、落語家□紙切りの師匠さん達の公演を見ることができました。7月には仕事で2週間ほど日本に帰り、帰りにニューヨークの学会に出ました。一緒にいた(前出の)久保田さんや藤原さんは初めてのニューヨークなので、色々なところに行きたかったと思いますが、ニューヨークは40度を超える猛暑で、セントラルパークを歩いていてもつらいだけ、おまけに地下鉄も冷房が効かず、結局メトロポリタンやMOMAといった博物館のはしごをしました。それに、夜はミュージカルの「プロデューサー」(お勧めです!)を観たり、レストランでワイワイすることもできました。学会最終日には一味もミドルベリーから一日だけ出て来て、次の日には一味の後輩の飯野夫妻(去年ベリーズと一緒にいった)と少しドライブに行って、夜はあのNobuで食事をしました。

9月には二人でウィーンの学会に行きました。それぞれの仕事先からシカゴで合流し、ロンドン経由でウィーンへ行きましたが、その日は中西部は天候が悪く、飛行機が大幅に遅れていました。由紀子のアイオワからの便は2時間遅れでシカゴに着きましたが、ロンドン行きも遅れていたのので何とか間に合いました。一味の飛行機はもっと遅れ、シカゴに着いたと同時に、オヘア空港中に一味を名指しでロンドン行きの飛行機の最終案内が流れ、死にものぐるいで走って何とか飛行機に乗ることができました。ロンドン行きは結局1時間半遅れて出発、到着も1時間程度遅れました。何とか辿り着いたロンドンはその少し前にテロ未遂事件があったため、警戒が厳重で、ウィーン行きの飛行機が出る5分ほど前にやっと荷物検査が終わりました。もう間に合わないと言われてましたが、ここでも搭乗ターミナルまでダッシュして、ぎりぎりでも乗せてもらえました。なんとかウィーンに着くことはできましたが、荷物は間に合いませんでした。その晩は国立オペラのチケットを買ってあったのですが、着替えがないのでそのままの格好で観にいきました。(演目はブッチーニの「ラボエーム」でした。)でも、オペラハウスには着物やボディコンのドレスなどで着飾った日本人の女性のツアーグループがいて、異様に場違いで、浮いていたおかげで、我々は全然目立ちませんでした(地元の人はスーツなどいたって普通の格好をして来ていました。)11月のナッシュビルでの学会では由紀子はワークショップと学会発表があり、一味はミドルベリーの集中講座の広報の仕事があり、慌ただしい4日間を過ごしました。サンクスギビングには、今年日本からラフィエットに來ている一味のバスケットの後輩の杉山夫妻と子供達、ミシガンから(再度、前出の)久保田さんと藤原さん、そしてインディアナのサウスバンドから瀬瀬さんが来てくれて、久しぶりに賑やかなサンクスギビングとなり、今年はやめようかと思っていたクリスマスツリーも立てました。仕事は全くはかどりませんでした。本当にいい休みになりました。(由紀子の車が新しくなりました。カムリのハイブリッドです。その燃費のよさはたいしたもの。排ガスがなくなる日がいつかは来るんだろうなあ実感しています。でも、生きていないかなあ。)



ミータローはいたって健康ですが、チビ助といっしょになると追っかけられるのでうさがっています。

授業は12月の2週目まであり、その後、大学町は一気に静かになります。今年の冬も、我々はしばらく日本で過ごすこととなりますが、お会いすることが会ってもなくても、皆様楽しいクリスマスと良いお年を迎えられることをお祈りします。

***** 頌春 2007年 亥年*****